

令和2年度 横浜修悠館高等学校 不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 項目・目標別実施結果

項目	目標	実施結果と目標の達成状況
(1) 法令順守意識の向上（公務外非行）	公務外であれ教育公務員としての自覚を忘れず、県民からの信頼を損なわない。	時宜を得た注意喚起を日常的に行うとともに、不祥事防止研修会（不祥事防止会議）での呼びかけや、同僚性、仲間意識を大切にした職場の中で孤立感を持たないような雰囲気醸成により、公務外非行を起こす職員ゼロを継続できた。
(2) わいせつ・セクハラ行為の防止	わいせつ・セクハラ行為の根絶。	携帯電話及び電子メール、SNS等の不適切な使用に係る事例を提示し、個々の職員が自分事として捉えるよう啓発・点検を実施することで未然防止の徹底を図り、わいせつ・セクハラの不祥事ゼロを継続することができた。
(3) 体罰、不適切な指導の防止（パワー・ハラスメント、人権に配慮した発言も含む）	体罰やパワー・ハラスメントの防止と適切な生徒指導に努める。	日頃から職員の体罰やパワー・ハラスメントを行わない意識を高める相互の言葉かけや、人権研修を実施し、生徒と教員の良好な人間関係の構築に努めることができた。 また、保護者、教員が共通理解、共通認識を図り、安心安全に活動できる学級風土づくり・職員室づくりを行うことができた。
(4) 入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	入学者選抜、成績処理、進路関係書類の作成および送付にかかわる事故を絶対に起こさない。	入学者選抜業務、成績処理業務、進路関係書類の作成及び取扱いにおけるマニュアルに基づく実施の徹底を図るとともに、原則一斉に作業を行うなど、業務上の情報共有や相互チェック体制を強化することで正確な実施をすることができた。
(5) 個人情報等管理・情報セキュリティ対策	個人情報の適切な取扱いに努める。	個人情報等の管理については、日常的に職員に注意喚起を行うとともに、定期点検やコンピュータ利用に関する研修等を実施した。また個人情報の収集や管理について、ルールを遵守し、届出等の徹底を図り、保管庫等の鍵の管理を徹底するなど、個人情報管理に対して高い意識を持ち、事故防止ができた。
(6) 業務執行体制の確保等	業務執行体制を確保し、共有と協力を進め、事故を未然に防止する。	職員相互のコミュニケーションを大切にし、日常的に風通しの良い職場づくりに努め、業務協力体制を構築するとともに、業務上の情報共有や相互チェック体制を強化することができた。
(7) 経理処理（公費・私費・現金管理）	適切で公正な予算編成と執行に努める。	経理処理について事務手続き等の共通理解を図るとともに、定期点検を実施した。また私費会計についても「私費会計事務処理の手引き」等に基づいた処理を徹底し、複数人によるチェック体制により適正で事故のない執行を行った。

○ 令和2年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和3年度に取り組むべき課題 (学校長意見)

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、「新しい生活様式」を踏まえた学校生活が求められる中、不祥事の根絶に向けては、どのような状況においても学校が一体となって取り組むよう努めた。

不祥事防止研修や、日頃から朝の打合せや校内情報システムを活用しながら注意喚起をすることで、一人ひとりの職員が学校外で発生した事案についても自分事として捉え、事故不祥事を起こさなかったことは評価できる。

特に生徒に対する指導を行う際には丁寧で配慮の行き届いた指導体制を構築しており、引続き体罰や不適切な指導ゼロを達成できた。この状況に安心することなく、定期的に学校全体で適切な指導について共通理解を図るとともに、職員相互の注意喚起を促したい。

また、日頃のコミュニケーションを大切にしたい。風通しの良い職場づくりの意識が職員に浸透し、お互いが注意しあうことができる業務執行が確保され、複数回に及ぶ入学者選抜や転編入学者選抜業務、成績処理や進路関係業務においても、事故なく適正な業務遂行がされた。

次年度も、各業務の先にいる生徒の姿を意識し、入学者選抜業務や成績処理、進路関係業務において、些細なミスも起こさない体制で臨むとともに、個人情報等管理・情報セキュリティ対策の徹底にも継続して取り組んでいきたい。

通信制における独特な業務が多く存在する中、職員の事故不祥事防止の意識をこれまで以上に高め、業務執行体制のチェックやマニュアルの見直し等を怠ることなく、事故不祥事ゼロ継続していきたい。